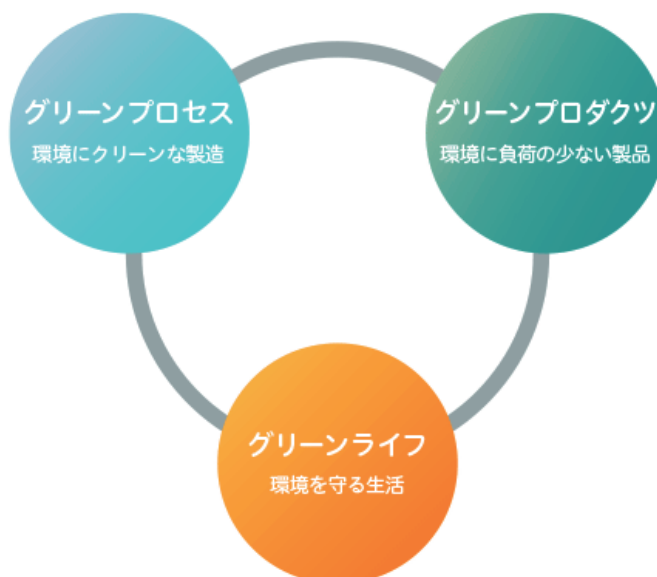


# グリーンプラン・環境方針

## グリーンプラン

SIIグループでは3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクツ・グリーンライフ」を基本コンセプトとするグリーンプランを策定し環境経営を実践しています。



### ■ 環境方針

SIIはこれまでSIIグループの環境方針を制定していましたが、2021年11月に親会社であるセイコーグループ株式会社の環境方針が改訂されたことを機に、セイコーグループの環境方針に準拠することにしました。

### ■ 環境方針

セイコーグループは地球環境の保全が社会全体にとって最重要課題の一つであることを認識し、豊かな時を共有できる持続可能な社会の実現をめざします。

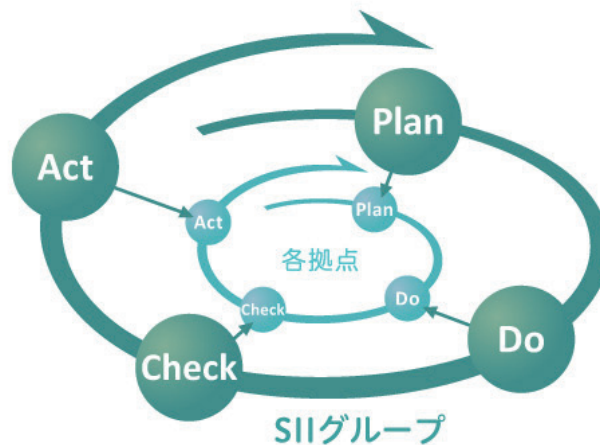
1. 社会の要請に応えた活動に積極的に取り組み、環境パフォーマンスの向上、ひいてはステークホルダー価値の向上に努めます。
2. 法令及び同意したその他の要求事項の遵守はもとより、環境リスクの低減と汚染の予防に努めます。
3. 温室効果ガス排出量の削減を徹底し、気候変動の緩和と適応に努めます。
4. 資源の有限性と貴重さを認識し、資源循環に努めます。
5. 事業活動が生態系サービスの恩恵を受け、同時に影響を与えていることを認識し、生物多様性の保全に努めます。
6. 使用する化学物質および製品への含有化学物質の適切な管理を徹底します。
7. 全ライフサイクルにおいて環境に配慮し、加えて環境保全に貢献できる製品・サービスを提供します。
8. 社員の環境意識の向上を図り、全員で環境活動に取り組みます。
9. 情報公開に努め、社会とのコミュニケーションを推進します。
10. 本方針の実現に向けて環境目標・計画を設定し、実行および結果を評価しながら継続的改善を図ります。

# 環境マネジメント

## 環境マネジメントシステム

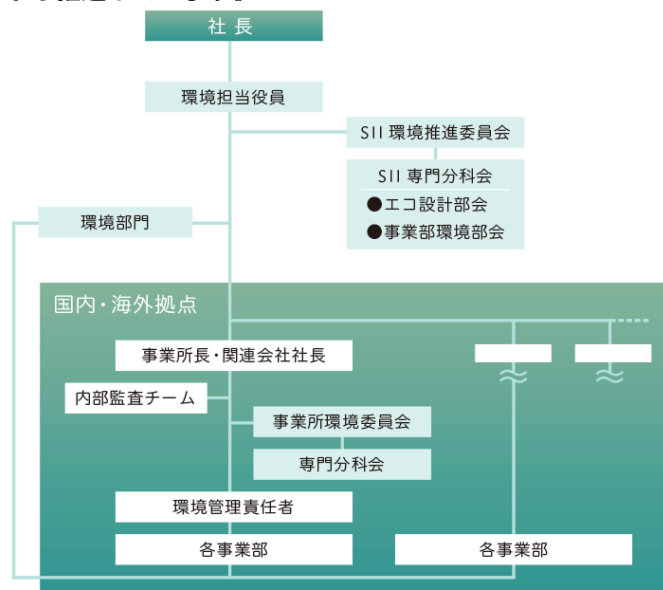
SIIは、グループ全体として、また各拠点においても国際規格ISO14001に則った環境マネジメントシステムを構築し、PDCAのマネジメントサイクルを確実に回すことで環境パフォーマンスの向上に努めています。

環境方針に基づき、環境活動における中期目標や年度目標を策定し、これらの目標は各拠点の環境マネジメントシステムによって展開されます。その活動実績は定期的に本社の環境部門へ報告され、環境部門では全グループを統括した環境マネジメントシステムを運用しています。



## 環境経営推進体制

SIIでは、社長のもと、環境担当役員を最高責任者として、SIIグループの環境マネジメントの推進体制を構築しています。拠点単位と事業部門単位の2つの体制を備え、各々の課題に応じた取り組みを、環境部門が事務局となり、各拠点や事業部門と協力しながら推進しています。



SII環境推進委員会では、SIIグループの中期計画の審議、各拠点からの活動報告や情報交換を行い、全グループで環境活動を着実に推進していくことを確認しています。2022年度の委員会は、前年度に引き続きweb会議ツールを利用し予定通り開催しました

# 環境配慮・貢献製品

## グリーンプロダクツの進化 - 環境に配慮した製品・貢献する製品 -

SIIでは3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクツ・グリーンライフ」を環境経営の基本コンセプトにしています。

中でも、グリーンプロダクツ、すなわち環境に配慮し、また貢献できる製品を創出していくことはメーカーの使命だと考え、SIIの技術理念である「匠・小・省」をベースに、環境に配慮した製品・貢献する製品を提供しています。

### SIIグリーン商品

SIIでは、2001年12月に「SIIグリーン商品ラベル」制度を導入、2006年10月には「SIIハイグレードグリーン商品ラベル」制度を導入し、製品自体の環境性能を確実に向上させてきました。

### グリーンプロダクツplus

製品自体の環境性能の向上に加えて、「SIIの製品が組み込まれることでお客様の製品の環境性能を向上できる」、また「人々が生活する環境の保全に貢献できる」、というこの考え方を「グリーンプロダクツplus」と名付け、製品やサービスの提供に注力しています。

### 提供範囲の拡大

- ソフトウェア・サービス -

これまでのハード製品（機器、部品等）での運用に加えて、新たにソフトウェア・サービスにもグリーン商品ラベル制度の運用を開始しました。



### SIIの製品を支える「匠・小・省」の技術

SIIの技術理念

「匠」: 一歩進んだものを、「小」: ミニマムサイズで、

「省」: 環境にやさしく創ること。

これを「SYO」ismとして表しています。

# 気候変動

「脱炭素社会」の実現に向けて、企業が果たすべき役割や責任はますます大きくなっています。同時に、自然災害の多発など、気候変動による事業上のリスクは年々高まってきています。SIIは、ものづくりの現場での省エネ活動はもとより、各事業会社が提供する製品・サービスにいたるまで、全事業活動を通じて温室効果ガスの排出量削減に努めています。これらの活動を継続しながら、再生可能エネルギー導入など、脱炭素に向けた取り組みをさらに強化しています。

## 2022年度の総括

2022年度は国内の生産拠点ではエネルギー消費量としては削減できた一方で、フロン漏洩量の増加などにより温室効果ガス排出量はわずかに増加しました。海外の生産拠点では、温室効果ガス排出量は大きく削減しました。これは再生可能エネルギー使用の拡大や生産減少の影響によるものです。

### Scope 別 CO2 排出量【国内拠点・海外拠点合計】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
Scope1	4,012	4,057	3,636	4,166	4,063
Scope2	87,253	86,115	55,235	56,479	52,583
合計	91,264	90,172	58,872	60,645	56,646

※端数処理の関係で合計が合わない項目があります。

# 資源循環

資源を利用し製品やサービスを提供するメーカーにとって資源循環は重要な経営課題であり「循環型社会」の形成に向けて果たすべき責任はますます重大になってきました。

SIIでは製品の材料となる鉱物資源やプラスチック、木材や紙などの生物資源、また生産工程では化学物質や水資源など多くの資源を利用しています。3Rを基本に製造・販売の場面だけではなく、原材料採取から廃棄・リサイクルまでの全ライフサイクルにおいて、資源の有効活用や廃棄物の削減に努めています。製品についても長寿命化や小型軽量化によるリデュースや、再生材の利用や再資源化によるリサイクルを徹底しています。

## 廃棄物

### 2022年度の総括

2022年度も3Rを基本に材料からの取り個数の向上、製品の小型化、洗浄剤のリユースなど地道な資源循環に取り組みました。廃棄物排出量は、国内拠点では前年度とほぼ同じ結果となりました。国内拠点では廃棄物の約8割を一般廃棄物、汚泥、廃プラ、金属屑が占めています。海外拠点の廃棄物は金属屑が殆どを占めていますが、生産減少に伴い減少し、廃棄物排出量としては8%の削減となりました。

## 水使用

### 2022年度の総括

SIIでは、水は貴重な自然資本であるという認識のもと、水資源の3Rに取り組んでいます。水使用量そのものの削減とともに、製造工程で使用した水の循環利用にも取り組んでいます。

2022年度の水使用量は前年度より国内拠点では7%、海外拠点では10%削減しました。

# 生物多様性保全

2022年12月に開催された生物多様性条約 第15回締約国会議(COP15)において、新たな生物多様性に関する世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されました。目標の達成に向けて企業にはより一層の取り組みが求められています。

SIIは、事業活動が生態系サービスの恩恵を受け、同時に影響を与えている企業として、生物多様性の保全は環境経営の重要課題であると考えています。SIIでは2011年4月に生物多様性行動指針を策定し、具体的な取り組みを開始しました。各事業所では生物多様性に配慮した土地利用、植栽活動、ステークホルダーとの連携など事業所の特性に合わせた生物多様性活動を推進し、「自然共生社会」の実現を目指しています。

## 2022年度の総括

SIIは、自然共生型社会実現への貢献 - いきものと共生する事業所 - を目指すことを目標に掲げています。事業所敷地における生物多様性への配慮、製品での生物多様性への配慮、そしてステークホルダーとの連携という視点で取り組んでいます。

2022年度も「SIIグループ生物多様性土地利用ガイドライン」に基づき、事業所の敷地における生物多様性の配慮に取り組みました。事業所に生息するいきもの調査や、その調査結果を事業所内で共有するなど、生物多様性の見える化や理解も進みました。製品についての配慮はグリーン商品制度に基づき継続的に取り組みました。ステークホルダーとの連携も、引き続きヒメコマツの育成に取り組みました。

## 生物多様性に配慮した土地利用

### ■ 緑化活動

Seiko Instruments(Thailand)Ltd.の2つの工場では、工場敷地の緑化活動の一環で合計320本の樹木を植樹しました。植樹はダルベルギア・コチンチネンシスを中心に、5種類の苗木を社員自らが植樹しました。今後も樹木の生長を見守りながら緑化を推進していきます。また、この活動は樹木のCO2吸収による温室効果ガス削減への寄与も狙っています。



# 化学物質管理

環境汚染や事故の原因となる化学物質は、正しく安全に管理していくことはもちろんのこと、使用量の削減や安全性の高い化学物質への代替など、環境負荷低減に向けた取り組みも企業の重要な責任です。化学物質を使用しているSIIの各拠点では適正な管理や削減活動、また継続的に化学物質管理の教育や訓練を行っています。

## 2022年度の総括

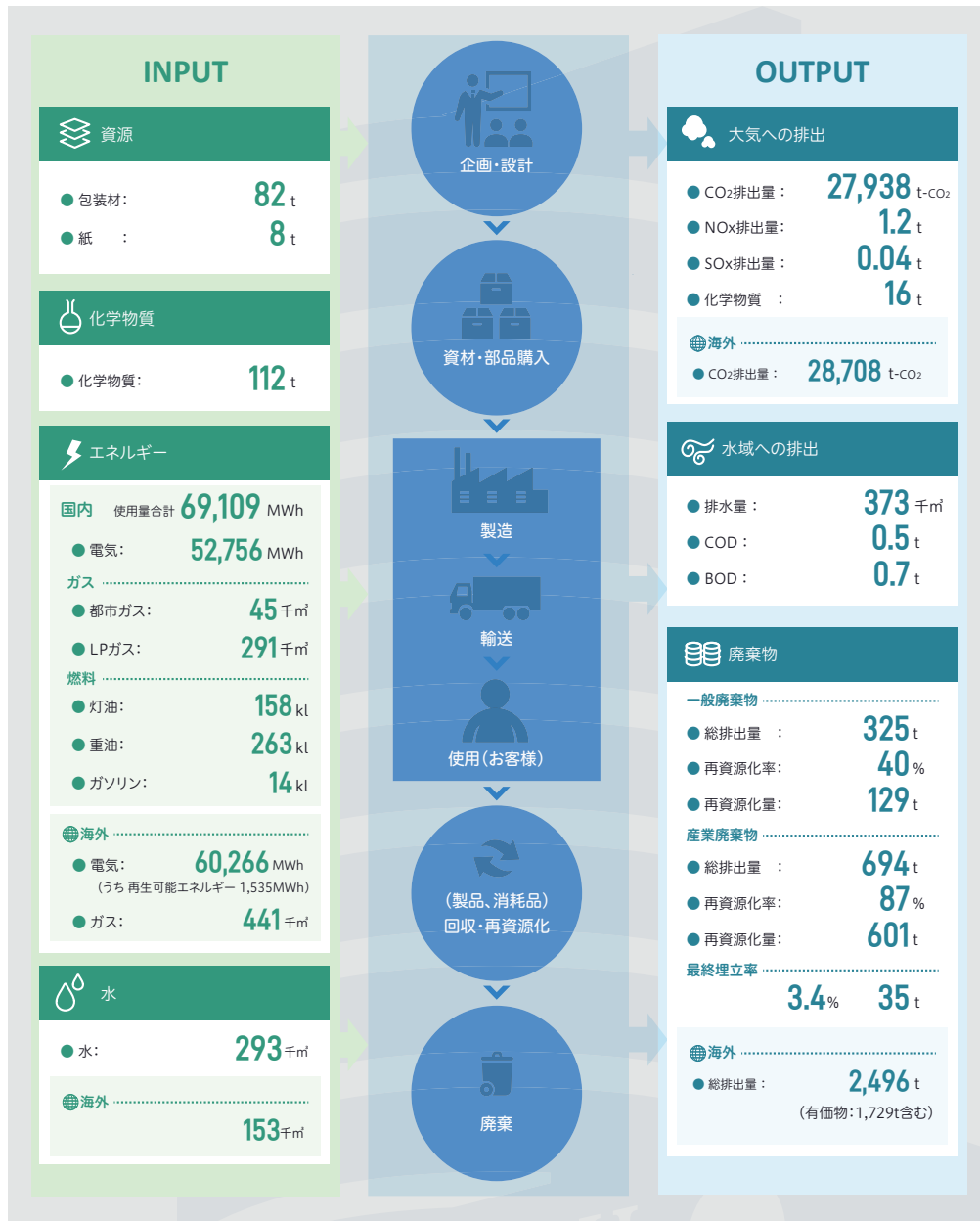
2022年度の製造工程におけるSIIが定めた管理対象物質<sup>\*1</sup>の排出量は16.3トンで、前年度実績より約7.8トン削減しました。また、PRTR法<sup>\*2</sup>対象物質の取扱量は49.1トンで、こちらも前年度より13.5トン削減しました。

<sup>\*1</sup> SIIの国内拠点では製造工程で使用する化学物質の中で、PRTR法対象物質に加えSIIで独自に指定した自主管理物質(23物質)とVOC(揮発性有機化合物:100物質)を排出量削減の管理対象としています。

<sup>\*2</sup> PRTR(Pollutant Release and Transfer Register 化学物質排出移動量届出制度)化学物質の取扱量、環境中への排出量、廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量などを把握・集計し、公表する制度。企業はこの制度の対象となる化学物質について集計し、行政機関に年に1回届け出る。

# 事業活動と環境負荷

SIIグループは、環境負荷を製品のライフサイクルを通して的確に把握していくことは環境活動の基本だと考えています。2022年度の環境負荷の概要は次の通りです。



INPUT	
包装材	: 容器包装リサイクル法の対象となる紙・プラスチック
紙	: 社内で使用するコピー用紙、プリンター用紙
化学物質	: PRTR対象物質とHFC類、PFC類、SF <sub>6</sub> 、NF <sub>3</sub> 、VOC
電気	: 電力会社からの購入電力
ガス	: 都市ガス、LPガス
燃料	: 灯油、重油、軽油
水	: 上水道、工業用水、地下水

OUTPUT	
CO <sub>2</sub>	: エネルギー起源のCO <sub>2</sub> 、及び国内拠点: フロン漏洩によるHFCの排出を含んでいます。製造工程でのHFC、PFC、SF <sub>6</sub> 、NF <sub>3</sub> は管理対象としていますが、排出はありませんでした。海外拠点: エネルギー起源のCO <sub>2</sub> 以外の温室効果ガスの排出量を含みません。(管理対象外)
NO <sub>x</sub>	: ガス、油などの使用により発生する窒素酸化物
SO <sub>x</sub>	: 油などの使用により発生する硫酸酸化物 ※ NO <sub>x</sub> 、SO <sub>x</sub> は大気汚染防止法で規制されるばい煙発生施設を設置している事業所に限定
化学物質	: PRTR対象物質とHFC類、PFC類、SF <sub>6</sub> 、NF <sub>3</sub> 、VOCの大気・水域への排出量
排水	: 河川、下水道への排水
COD	: 汚濁負荷量 ※ 水質汚濁防止法の総量規制対象事業所に限定
BOD	: 汚濁負荷量 ※ 水質汚濁防止法の特定施設設置事業所に限定
一般廃棄物	: 事業活動に伴い発生する廃棄物のうち、紙ゴミ、生ゴミなど
産業廃棄物	: 事業活動に伴い発生する廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラ、燃え殻、汚泥など
最終埋立率	: 廃棄物総発生量に対する最終埋立処分量の比率